

令和6年能登半島地震に関連する海底地形調査

- 1月8日から19日にかけて富山湾及び能登半島北部における地形変化の有無を確認するため、測量船「昭洋」による海底地形調査を実施
- 過去のデータとの比較から、富山湾において斜面崩壊の痕跡、能登半島北西部において既知の活断層南側における海底隆起を確認

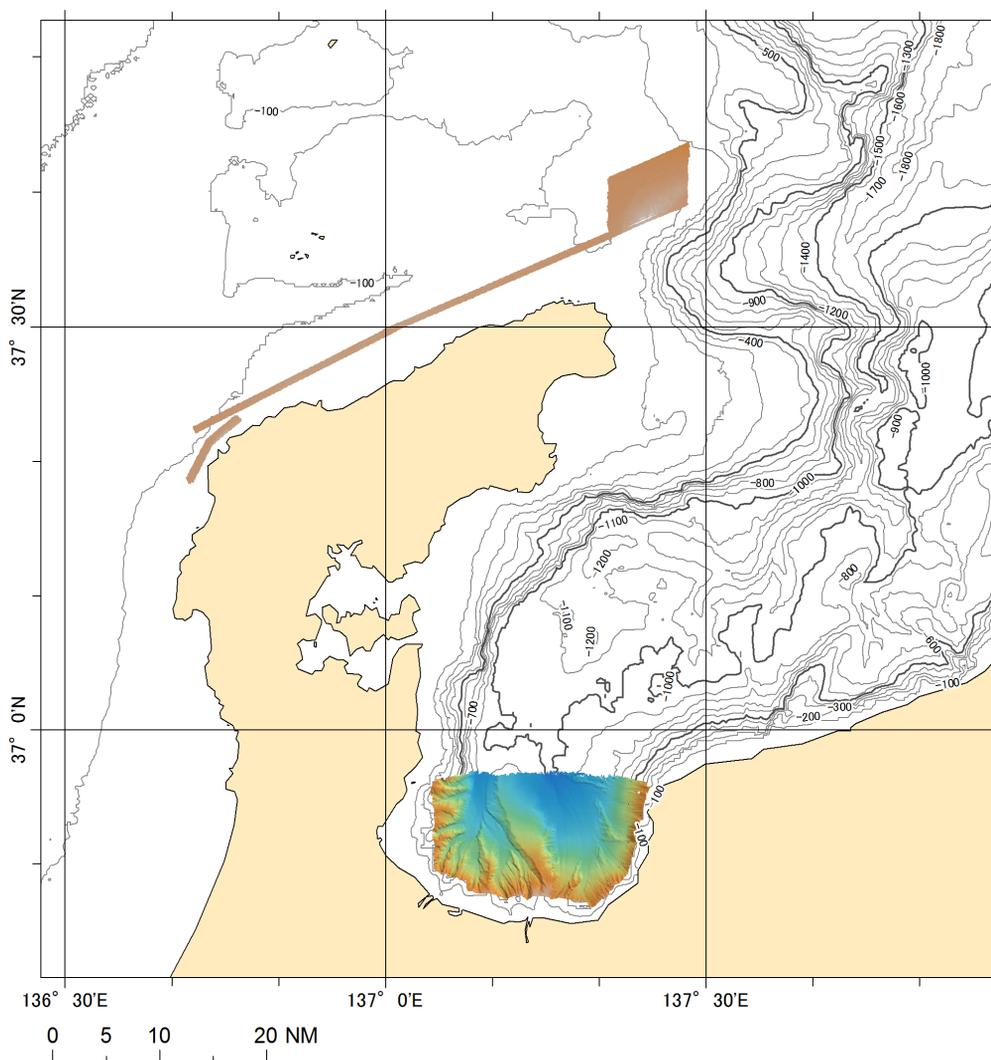


図1 測量船「昭洋」による海底地形調査結果

【参考文献】井上卓彦・岡村行信（2010）能登半島北部周辺20万分の1海域地質図及び説明書，海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」

【謝辞】産業技術総合研究所には2008年取得の海底地形データをご提供いただきました。国土地理院にはだいち2号の解析データをご提供いただきました。記して感謝申し上げます。

富山湾における海底地形調査結果

富山市沖約4kmの海底谷で斜面崩壊の痕跡を確認
長さ約500m、幅約80mにわたって崩れ、最大40m程度深くなる

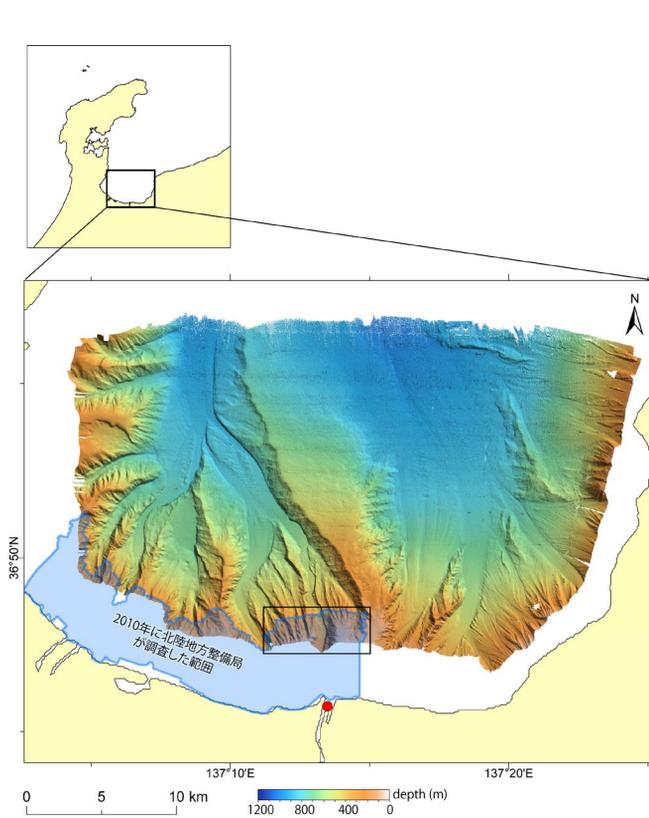


図2-a 富山湾における調査範囲

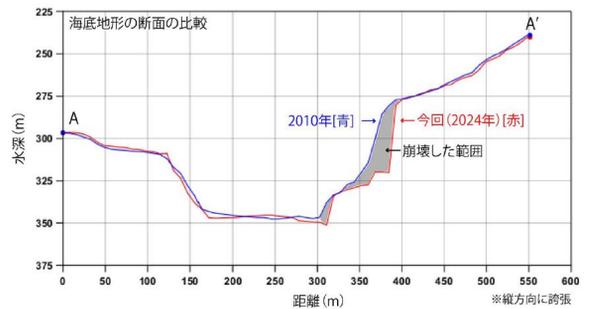
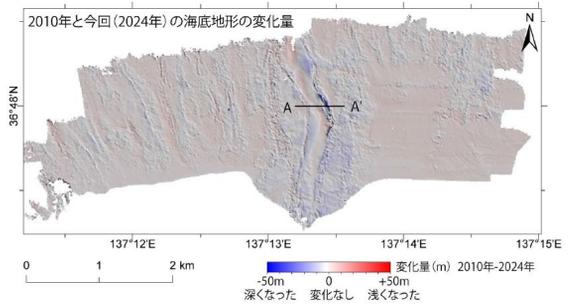
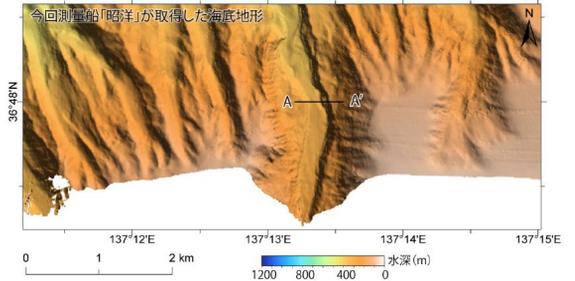
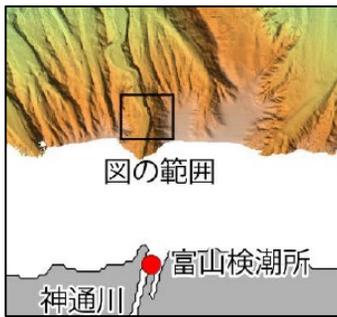
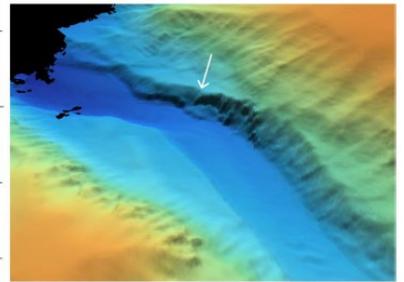
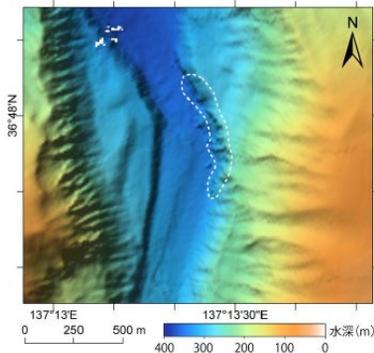


図2-b 2010年と2024年の海底地形比較

2010年の北陸地方整備局の調査結果



図の範囲

今回(2024年1月15日~17日)の調査結果

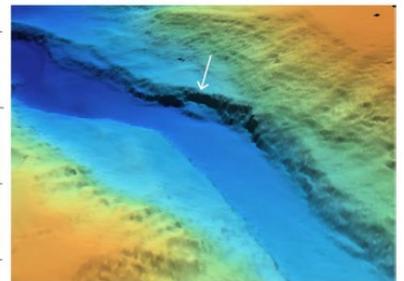
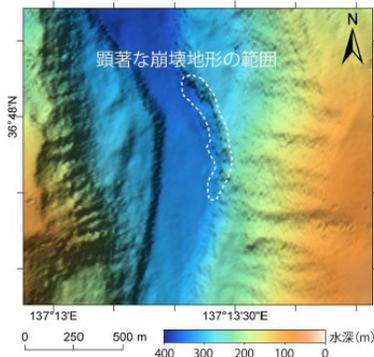


図2-c 崩壊した付近の海底地形

能登半島北部における海底地形調査結果

能登半島北西沖(領域1)の活断層南側の隆起を確認

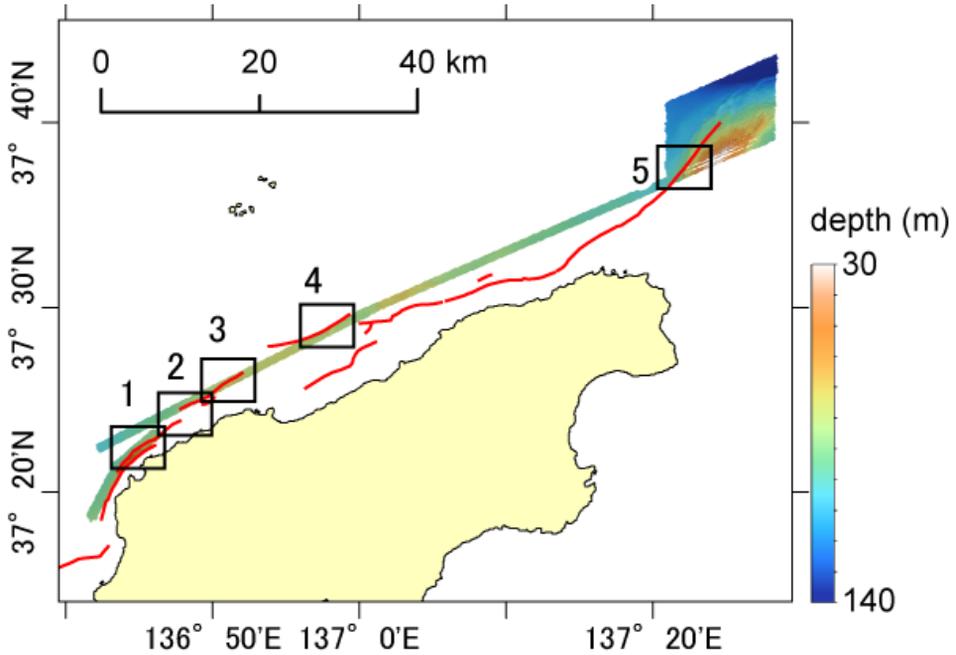


図3-a 能登半島北部における調査範囲。赤線は井上・岡村（2010）による活断層トレス。海底地形図はN135方向から光を当てている(以後の図も同様)

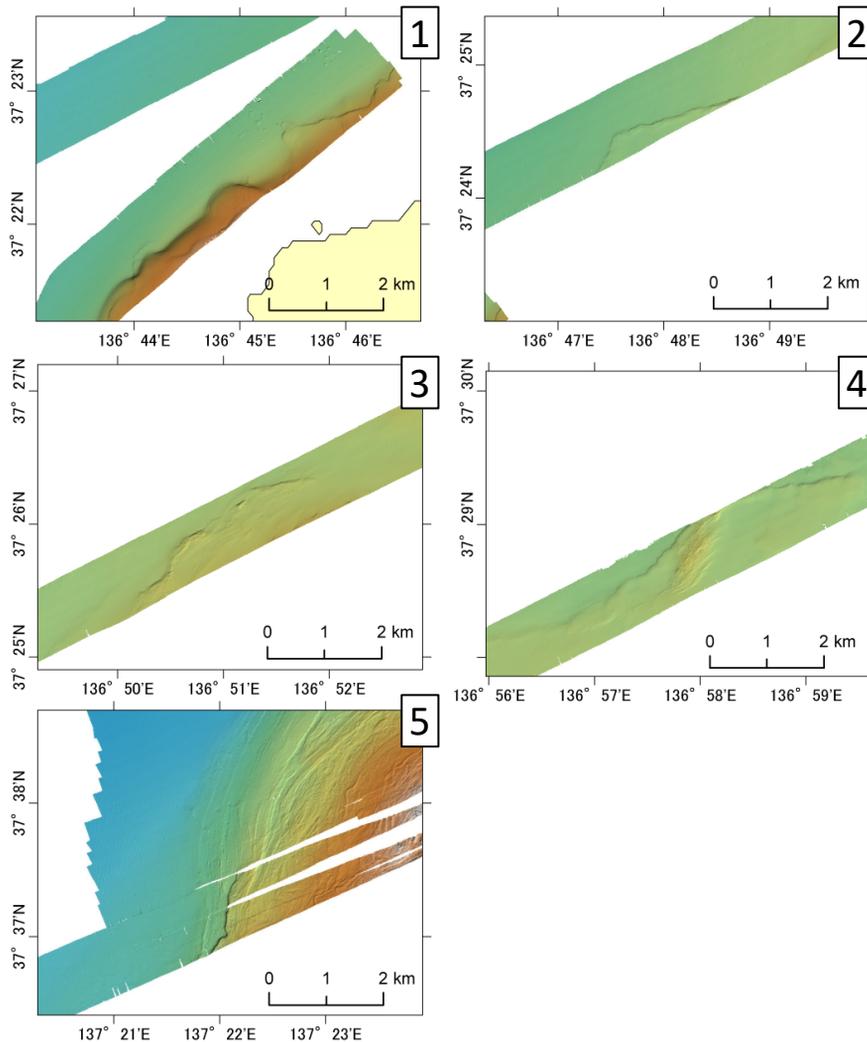
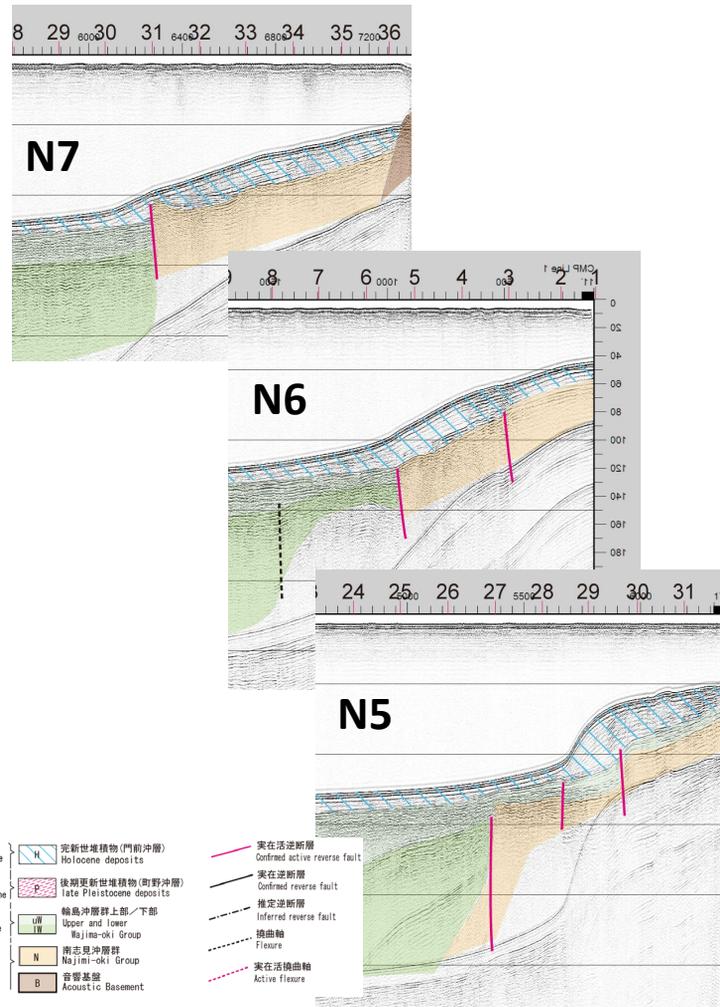
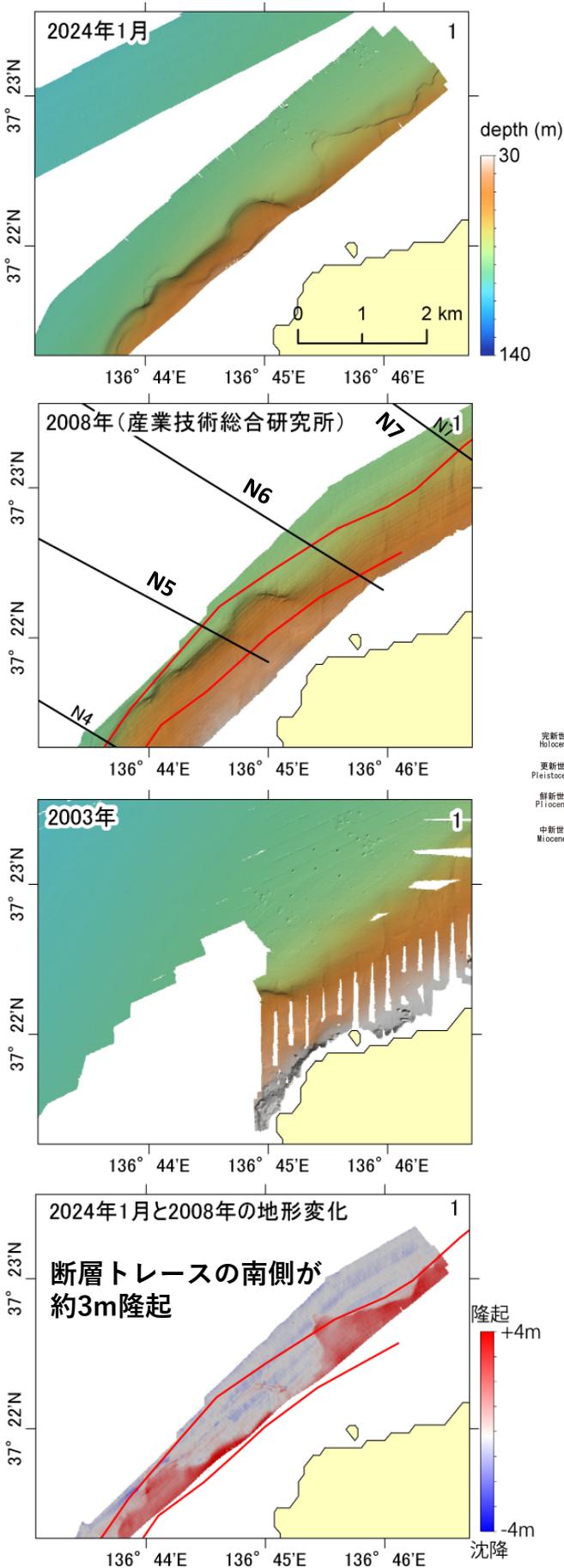
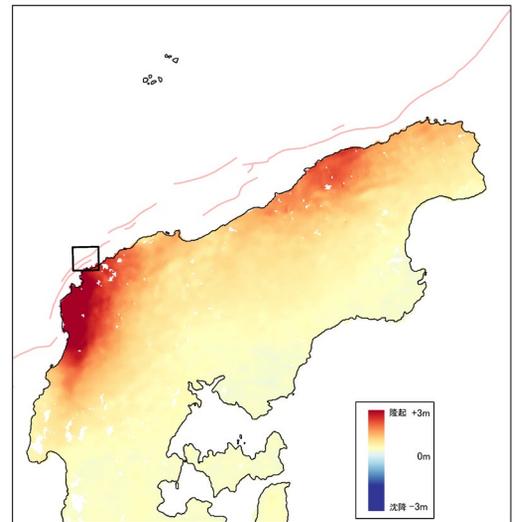


図3-b 図3-aで示した矩形領域の拡大図

領域1



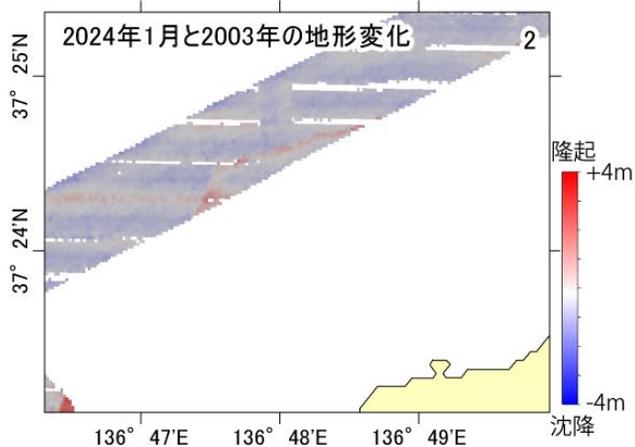
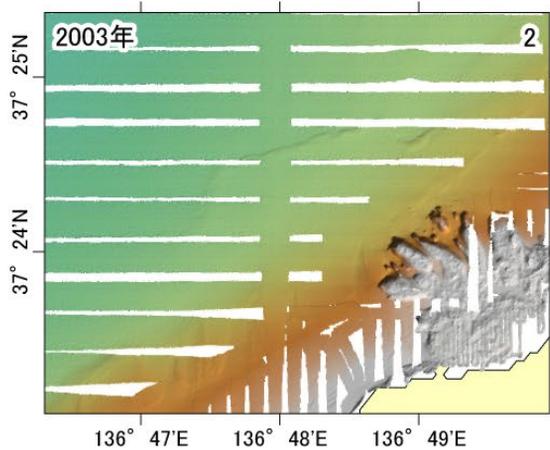
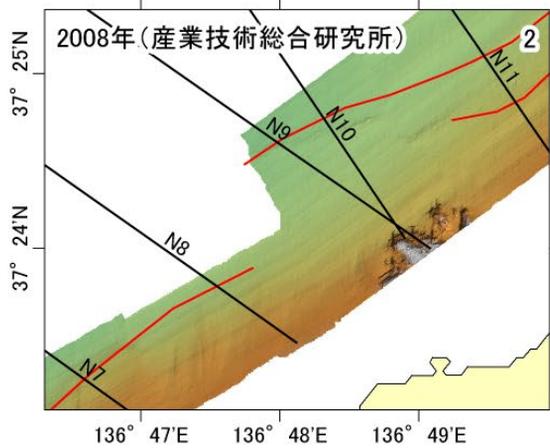
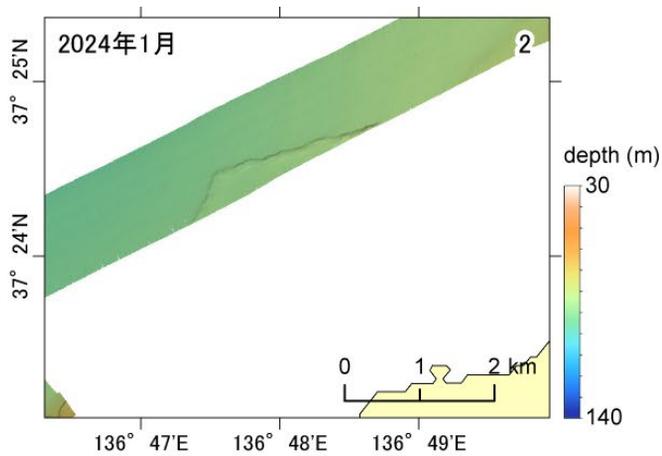
参考図1 海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」における音波探査解釈断面(産業技術総合研究所)



参考図2 だいち2号観測データの解析による準上下方向の地殻変動(国土地理院)

図4 2024、2008年、2003年の調査による海底地形とその比較。赤線は活断層トレース。黒線は産業技術総合研究所の音波探査測線。産業技術総合研究所の結果は井上・岡村(2010)による。

領域2



領域3

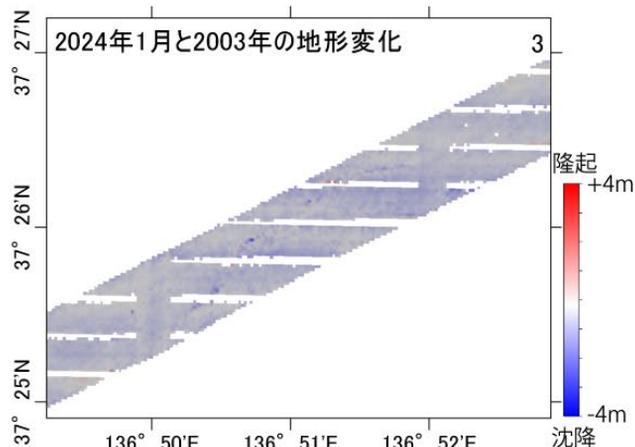
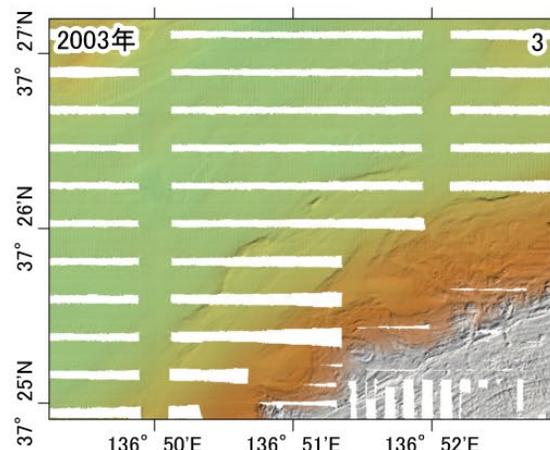
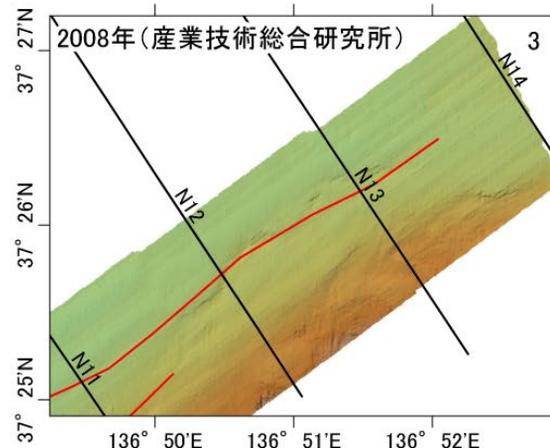
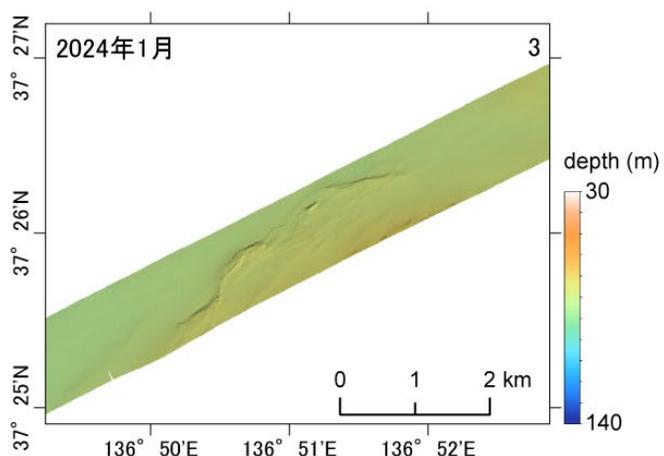
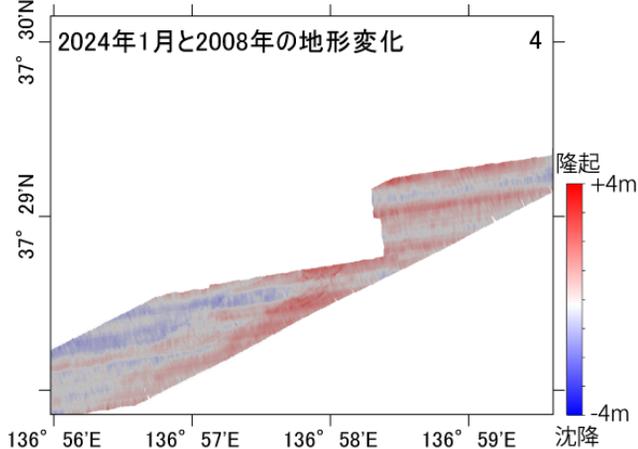
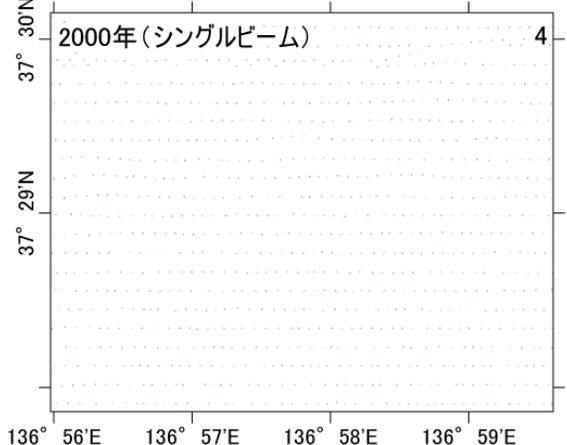
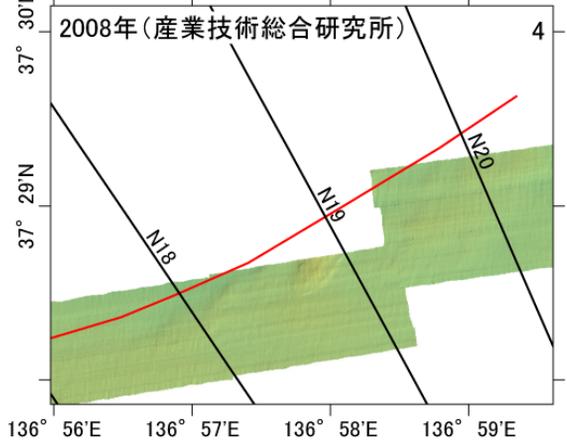
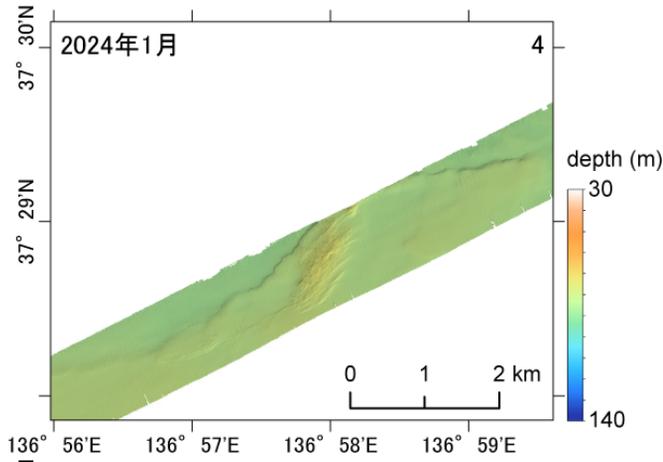


図4 続き

領域4



領域5

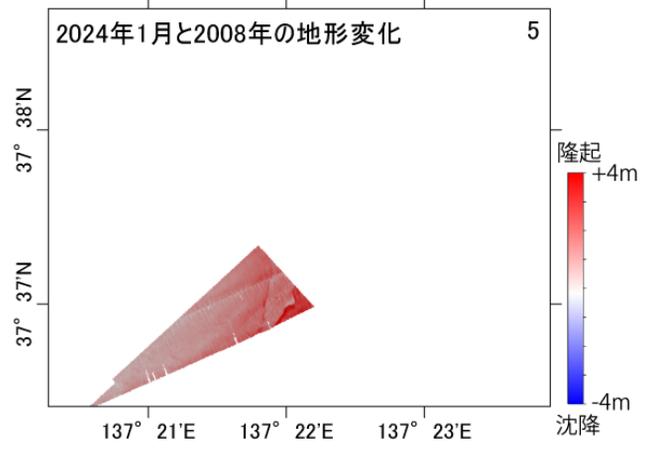
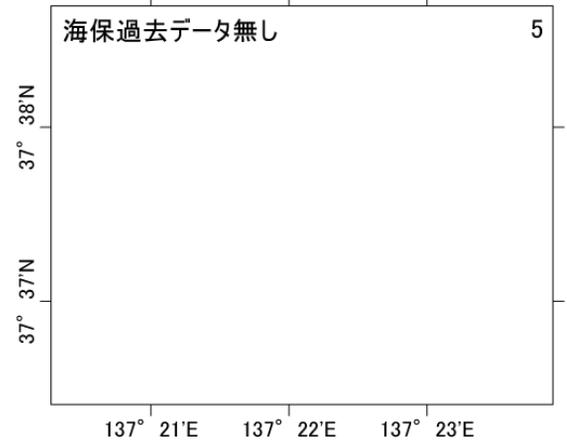
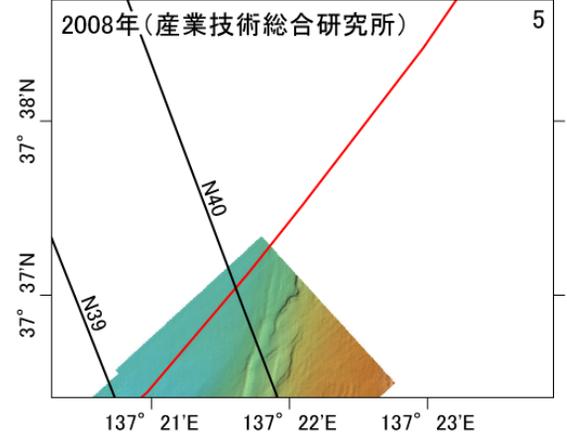
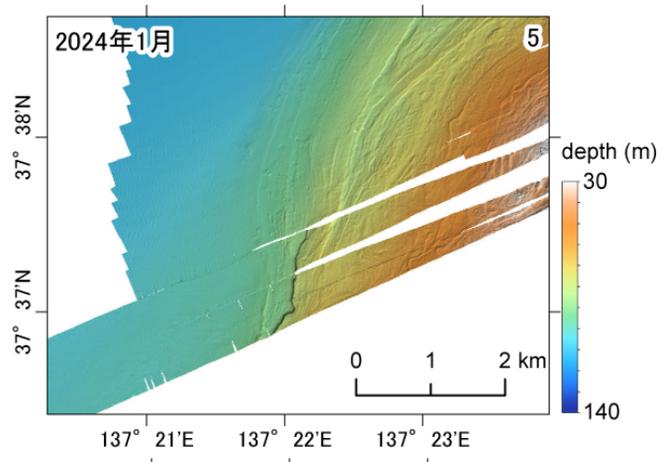


図4 続き